

広げよう！森づくりの輪

# 森サポ通信

おかやま森づくりサポートセンター情報マガジン

Vol. 2 2022.3



交流会(令和3年11月23日 伊部つながりの森ほか)



森づくり研修会(令和3年9月26日 高梁美しい森)



森づくり研修会(令和4年1月15日 美咲町有林)

## 目次

■ 運営委員からの寄稿	P2	■ 活動発表会	P4
■ 交流会	P5	■ 森づくり研修会	P10
■ 森づくりサポーター	P11	■ 新規会員の紹介	P12

## ■運営委員からの寄稿

### 過疎地域における森づくり

運営委員 石井克己（フォレストフォーピープル岡山）

フォレストフォーピープル岡山の活動拠点である高梁市は、岡山県内で人口減少が1, 2を争う地域です。そんな現状の中、森づくりの意義を自分なりに日々自問自答をしています。一つの意義としては、高梁に多くの人に来てもらいたい、少しでも、森づくりを通して町を活気付けたい思いがあります。もう一つの意義としては、多くの方に自然の良さを知っていただき、心身ともに癒されて欲しいと思っています。



#### 外国における森づくりと日本との違い

私自体、学者でもなく、森に詳しい訳でもありません。実体験として外国に行った時に日本と外国では根本的な国の政策として森づくりが違っているなと思っています。

アメリカで暮らしていたことがあります。時々、国立公園などに行きました。国立公園には、必ずレンジャーがいます。全アメリカで13, 000人ほどだと聞いています。日本の300人とは段違いです。世界一大きな鍾乳洞のカールズバッドに行った時ですが、日本の鍾乳洞のように、鍾乳洞の石灰岩には、決して触らせることはありません。通路があり、そこから手を伸ばしても、鍾乳洞の壁には届きません。触ることは禁止されています。

イギリスでは、グリーンツーリズムが進んでいます。過疎の村には、数軒の家しかありません。ですが、その地域は大変きれいに保たれています。農家では生計は立てられませんが、その地域の道の整備、山の整備を政府から委託され収入を得て、森づくりをしています。そしてきれいな森を作り、そこへロンドンなどの大都会から大勢の人々が癒しを求めて山歩きなどを楽しんでいます。

今、日本は急速な過疎化が進み、田舎では森の整備もできなく、森がだんだん衰えてきています。抜本的な農林政策を打ち出さないと、過疎地の森は死んでいきます。本当に、微力ですが、少しでも森を美しくしたいと思い、フォレストフォーピープル岡山の活動を通して高梁美しい森づくりに参加しています。



### 森づくりと安全について

運営委員 梶原利廣（岡山県森林インストラクター会）

ある林業会社の親方は、樹上作業において「怖さが無くなったら、木には登らない」と話しているそうです。それは高い木の上で作業する事には恐怖感が伴います。怖さがあるからこそ、危険予測を常に頭の中でおこない、樹上作業を慎重に安全に行えるということであり、怖さへの慣れは安全管理の欠如に繋がり、重大事故を引き起こしかねないと。（全国林業普及協会著「現代林業2021.10月号」から一部転載）





昨年からサポートセンター研修会を担当させていただき、安全管理をテーマにした「刃物の研ぎ方」、「歩行時における安全」について研修を実施しました。私自身も過去にはナタを膝に打ち込んだり、鋸で我が手を挽いてみたり、もちろん歩行中に斜面下に落ちてしまった経験をしていますので、受講される皆さんに自分の経験が伝わればとの思いで研修を進めています。

森林での作業で汗をかき、きれいに仕上がった状態を見ると、達成感・爽快感が得られます。しかし、その思いは『怪我無く』が必須だと思います。

最近「高所平気症」と言葉が聞かれるようになりました。高層マンションに住む子どもたちは、高いところに慣れてしまって、ベランダの塀など平気で登ってしまい、落下する事故が増えているとか。

私たちの森づくり作業においても、危険に対する「慣れ」を再認識し、楽しさをみんなで分かち合えるものになることを願っています。



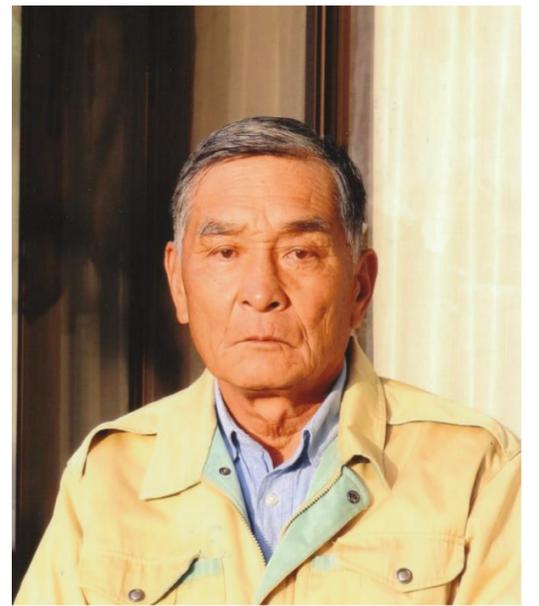
## 森林と私

運営委員 長代 廣（倉敷地域森づくりの会）

私の家は総社市の新本地区で家の裏が山になっており、私の散歩コースになっています。

子供の頃、祖父に連れられ山で作業の手伝いをするのが日課で自然の中で育ちました。そして、いつの間にか一人で山作業をしたりして山林の楽しさを感じていました。当時は、マツタケやその他きのこ類が近くの裏山で採ることのできるのも山の魅力でした。二十歳の頃に植林したケヤキが、今、五十数年の年月を経て堂々とした大木になり歴史を感じています。その後もスギ、ヒノキ、アカマツ等植樹をしてきました。

私の地域は、山林管理会のもと地域を挙げて、山作業の日があります。今では一日だけですが、新本地区全戸約500戸で山の下草刈りや枝打ち作業などを行っています。当日は弁当持参でそれぞれ昼になると輪になって親睦を深めるのも楽しみの一つです。春休みになると、小学校の学童の子供たちと一緒に校庭に運んだ原木にシイタケの菌打ちを体験させています。シイタケが出来たところに親子でシイタケ狩りをしています。



岡山県教育委員会の新採用研修において森づくり一日体験活動を実施しています。自然の中での活動に、若い人の力が発揮でき充実した一日になっているようです。森林の持つ働きによって、自然災害や土砂流出など森林が、私たちの生活にどのように関わっているか改めて森林の大切さに気づいてほしいものです。

倉敷地域森づくりの会では一人でも多くの方に森林に対する活動に理解し参加して頂きますようお願いいたします。

# ■活動発表会

会員の活動発表や外部講師による講演を行い、森づくりに関する情報交換や交流促進を図っています。

開催日：令和4年3月6日（日）

場 所：建部町文化センター

参加者：50～100名

## ●講演

森づくりの技術的課題と小さな自然再生の実例

鳥取大学教授 日置佳之氏

### 【略歴】

1957年東京都生まれ。東京農工大学卒業、信州大学大学院修士課程中退。東京都、国土交通省の造園職を経て、鳥取大学農学部教授。専門は「人間が壊した生態系を治す技術について研究する」生態工学。著書に『自然再生の手引き』『森林・林業実務必携』など。自生種・地域性種苗を用いた生物多様性緑化の実践で、2011年、日本緑化工学会技術賞受賞。山登り・スキー・シーカヤックなどの野外活動が大好き。技術士（環境部門）、1級造園施工管理技士、樹木医、森林インストラクター。



### 【要旨】

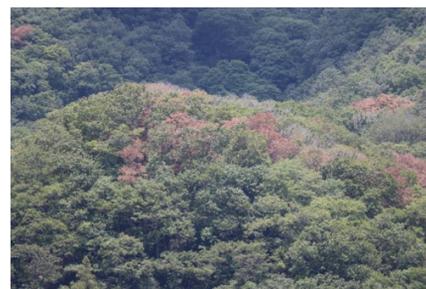
本講演では、森づくりの技術と小さな自然再生について実例をもとにお話しします。

森づくりは、2つの方法、「木を植える森づくり」と「木を植えない森づくり」を紹介します。「木を植えない」と言うのは、意外かも知れませんが、「天然下種更新」と言って昔から使われている方法です。最近、大山山麓の鳥取県立オオタカの森で試されているアカマツ林の天然下種更新の話をしていきます。「木を植える森づくり」は、林業はもちろん、緑化工事や植樹行事などよく行われる方法ですが、実際にはさまざまな問題点もあります。それをどのように克服してちゃんとした森にしていくかについて、とくに落葉広葉樹林についてお話しします。「小さな自然再生」は、真庭市津黒高原湿原で行われている湿原再生の話です。資金も組織も何もないところから、どうやって湿原を再生したのか、足掛け10年になる事例についてご紹介いたします。

## ●情報提供

### ○岡山県農林水産総合センター森林研究所

ナラ枯れ被害の状況とその対策について



## ●活動発表

### ○倉敷地域森づくりの会



倉敷地域に適した森づくり活動を通じて、参加者に森林整備に必要な装備、資材の使い方等を習得してもらい、森づくりを楽しめる人材を育てたいと思っています。そして森林整備で発生する木材・竹材等と整備実施個所の有効利用を考え、会員はもとより地域住民が楽しめる活動を目指しています。

### ○打穴中「鬼山ふる里」いきいき会



平成10年発足。地域のシンボルである鬼山の森林保全や整備・活用を進めています。樹木の除間伐、不要木の除去、下草刈りの整備作業と併せて薪やチップ作りの講習会を開いています。桜や広葉樹の植樹や遊歩道の整備を行い、登山会、見学会、桜まつり、ウォーキングなどのイベント会場として利用しています。また、「小学生親子・しいたけの菌打ち体験」も行っています。

# ■交流会

会員の交流促進と知識・技術の研鑽を図るために交流会を開催しました。

日時:令和3年11月23日(勤労感謝の日)

10～14時

場所:東備消防組合消防本部研修室

伊部つながりの森

参加者:7団体 28名



## 1 室内研修

### 伊部区有林管理会の活動報告

事務局長 三村隆司氏

(株)TCC 安田年一氏、(一社)岡山県建築士会 今井 翔氏



- ・松林再生の取組
- ・片上・伊部つながりの森実行委員会の9年間の歩み

- ・伊部つながりの森活動
- ・伊部つながりの森ヒノキ原木活用取組
- ・2021年ヒノキ原木活用検証及び今後
- ・今後協働で行いたいこと

## 2 意見交換会



木村会長

### 倉敷山好会

倉敷山好会会長の木村です。本年の活動ですが、30年ほど前から毎年市民参加型の山歩き大会をずっと続けていますが、コロナ禍の問題でここ2年ほど活動ができない状況です。倉敷山好会の活動といたしましては、一般市民の方々に安全に山歩きを楽しんでもらおうと倉敷北部縦走路の草刈り、チェーンソーで倒木処理を行う等縦走路の整備を毎年継続しています。

それと併せて昨今、松くい虫で松の倒木が非常に多くなっているということがありまして、平成29年度から毎年、植栽事業にも取り組んでいます。今年度は11月13日に会のメンバーや山歩き仲間に声をかけ、アカマツの植栽を行いました。去年植えた松が非常に大きく育っているなど印象を受けております。また、一昨年台風で山崩れが起き、その山崩れの箇所を整備し、そこにアカマツの植栽も行いました。以上が倉敷山好会の活動です。

## 岡山県森林インストラクター会

岡山県森林インストラクター会の梶原と申します。本年度の活動といたしましては8月に岡山県緑化推進協会が主催の指導者研修を建部の友愛の丘で行いました。当会といたしましては子供樹木博士の催しがあり、これらの進め方について指導させていただきました。

それから9月、10月には、森づくりサポートセンター主催のサポーターを対象に行う研修会を2回行いました。いずれも高梁美しい森において開催し、1回目のキノコの働きについて12名、2回目の安全管理で刃物の研ぎ方及び鋸の目立てに8名の方の受講がありました。

そして、毎年行っていますインストラクター会としての自然観察会を実施しています。今年は高清水トレイルの一部であります伯州山へのコースを設定いたしました。約50名の参加がありました。毎年高齢の方が多いのですが、今回は20代、30代の若い方の参加がありました。今回で11回目ですけれども、12回、13回と続けて行く予定です。こういった若い方の参加が非常に嬉しく思っています。今後も続けていきますので皆様もよろしければ観察会に参加していただきたいと思っております。



梶原会長



古田事務局長

## 早島さくら千年委員会

早島さくら千年委員会事務局の古田です。皆様のお手元に冊子をお配りさせていただいておりますが、設立15周年を記念しまして今年の10月に取りまとめたものです。里山との共生を通じて活動を取りまとめたものです。拝読していただければ幸いです。

早島町の面積は7.6平方キロ、東西南北2.8キロと車で行けば5分で早島町は抜けてしまう小さな町に12,700人余り住んでいて岡山県内で人口密度が一番高い町であります。

ただ、山林と言えるほどの山は少なく、その中に、早島町ふれあいの森公園があり、この公園は、岡山県総合流通センター開発に伴い、里山を活用して岡山県が造った公園でございます。平成2年に完成して、私たちは平成18年からふれあいの森公園にサクラの植樹活動をして参りました。サクラを千本植えようと目標を立てて、現在1,400本ほど植樹いたしました。年間を通じて一般の方も参加しながら下刈り等、保育活動して参りました。

発足当時は若かった会員の多くが、15年もたつと高齢化が進んで病気等で亡くなった方もおられ活動の継続が非常に厳しい状況にあります。今後は後継者の育成なども念頭に置きながら活動を進めていきたいと思っております。

年間を通じて色々なイベントにも参加して活動資金を集めたりしておりますが、現在コロナ禍ですべてのイベントが中止となり資金が非常に厳しい状況にありますが、お陰様で、おかやま森づくりサポートセンターに参加させていただいていることで、岡山県からもご支援をいただくことが出来感謝しております。今度ともよろしく願いいたします。



記念冊子

## NPO法人フォレストフォーピープル岡山

FFP岡山の石井と申します。私どもの活動拠点は高梁市にある高梁美しい森です。賀陽インターから車で5分位の非常に立地は良いところです。早島さくら千年委員会さんも言われていましたが、現在困っているのは人手がいないことです。設立した時から状況が大きく変わってきていて新規入会もなく、大きなイベントもできにくくなっており、資金面にも困っている状況にあります。私どもの活動は1つ目の柱としては、皆さんの所とは少し違うと思っておりますが、県南の企業から森の管理を受託し、そこで森づくりの活動をしてもらうということです。ENEOSさんは1回に200人くらい、三菱ケミカルさんも150人くらい、タカナシ乳業さんも30人くらいが各々年間2回、トータル700～800人来ていただいて、



石井理事

その指導費などを活動資金にしていたのですが、コロナの関係でゼロになってしまい難しさを痛切に感じています。

やっとコロナが山を越えたところでENEOSの皆さんに整備を行ってもらい、先週は、ログハウスで有名な倉敷のBESSさんの敷地内でイベントを行いました。薪割り体験や独楽づくり等お客様が来られたときのイベントとして出張サービスも行っています。

今はこういった活動が収入源で、カツカツでやっています。このほかに草刈り、チェーンソーの安全教育等がコロナの関係で全くできなかったことが残念に思います。

コロナが早く収まってこういった活動を徐々に再開でき、会員不足や資金面で苦しんでいる団体の横のつながりを強めれば、有効なアドバイスを受けられるのではないかと思います。

## 和桜会

和桜会会長の吉田と申します。私たちの会は新見市内の17戸の小さな山間集落の中にある会員15名の団体です。きっかけは46年前、昭和50年になりますが、集会所周辺の不要木を伐採してサクラを植えて花見をしようと20代から50代の青壮年で発足しました。当時は集落の中での活動が主でした。

12年前に大橋日出男氏が移住して来まして、この地域はカルスト地帯で希少な植物があるということで春の野の花観察会を開くことになりました。以来毎年4月に行って参りました。外部の参加者を呼びかけての交流が始まりました。今までは何気なく見ていた植物が希少な植物だとその時初めて知りました。10年前からモミジの植林を始め、約50アールの山林を伐採し、イロハモミジ、ミツバツツジ、ヤマボウシ500本の苗木を植樹しました。

現在の会員構成といたしましては、発足時の会員が4名、2代目が6名、移住者5名と少しずつ新陳代謝をしております。つい先日もツツジの植樹と遊歩道の整備を行いました。これからも美しく豊かな里山を目指して活動していきたいと思っております。



吉田会長



杉原代表

## 備中足守竹取物語

備中足守竹取物語代表の杉原です。皆さんは足守をご存じでしょうか。今、岡山県指定名勝・近水園(おみずえん)の紅葉情報がNHKで放送され、この時期は多くの人がお越しになります。私たちはその近水園の裏山の宮地山を整備しています。

明治以降荒れた宮地山を古い絵図(近水園古図・18世紀)のように整備し、上から見渡せるような大名庭園の景観を取り戻そうと、平成19年春から毎月1回集まって草刈り、不用木竹の伐採をボランティア活動として続けてきました。

始めたばかりのころは何も分からず、伐採した竹を軽トラックに載る長さに切って近くの空地まで運び、夜まで延々燃やす作業を繰り返していました。現在は竹チップ処理機をリース会社からレンタルで借り、伐採木竹をチップ処理できるようになってから作業効率が一気に上がりました。

近水園の平地部分は岡山市の管理ですが、山の部分は木下家の子孫の方(東京在住)の個人所有なので市はこの取組には係わっていません。

私たちが独自に木下家の方の了解をいただいて山に入って整備をしています。市には一体的な整備を認めてもらえませんが、ただ地域の皆さんからは「少しずつきれいになっているね。」と声をかけていただいています。会員の継続意欲につながっています。

地域との連携では、10年程前まではイベントとして隣接する小学校の小学生や先生方の参加協力があり、竹で正月飾り工作、山桜の植樹、近辺の里山トレッキングなどをしましたが、今は社会状況が大きく変わり、チラシ配布にも学校のみでは判断できず教育委員会の許可が必要とのことで、学校連携は大変難しくなりました。

整備作業している山に入った小学生から親を通じ警察に通報されたことがあり、それ以来「立入禁止」ロープを張りました。そうしたことから、今年度は会員の安全な作業継続と多くの方に当地の景観を楽しんでいただくために10年以上もつようと枕木を購入し、遊歩道を整備することにしました。今後の課題は会員の高齢化による怪我の心配と次世代へどうしたら作業継続できるのか？です。

## 伊部区有林管理会

伊部区有林管理会の倉地でございます。先程事務局長の三村が説明いたしましたように伊部地区にとっての活動はやはり地区林ということで、地区の役員が率先して山に入っていくということが非常に有利な働きになっております。どの団体も高齢化ということですが、伊部地区では町内の役員がいろんなイベントに参加していくということでは非常にスムーズな働きがこれからもできていくのではなかろうかと思っております。

県内どこの地区もそうでしょうけど、私たちは有害鳥獣に悩まされております。様々な研修会に参加させてもらいますが、一番の対策は里山を作ることだと感じています。住んでいる目線に里山があるということが鳥獣対策に一番大切だということを知りました。

この伊部地区は西地区、東地区と分かれて団体を構成しています。それぞれ東西地区が率先して山の掃除、整備、植栽等心がけてやってくれますので、少しずつ住民に山に入っただく、紅葉を楽しむ、あるいはさわやかなイベントで楽しむ、そうした地区をあげての行事を行っています。少しずつですけれども前進をしております。

三村事務局長の説明の中にもありましたが、現在伊部地区と片上地区が協力をして1つの事業に取り組んでいます。私たちの一世代先輩達からは伊部地区と片上地区は仲が悪く山の境で喧嘩をしたという話を聞いておりますが、今の時代になって手を繋いで1つの事業に取り組んでいるということは非常に素晴らしいことで、こうした輪が隣接の香登という地区に広がっていけばと思っています。

これからつながりの森を見ていただくのですが、TCCさんが企業の森ということで入っていただくまでは非常に荒れ放題の山でしたけれども、人が入ることによって安心安全な子どもたちが遊べるような所になっております。1ついい事例としてみていただけたらと思っています。今日は本当にありがとうございました。



倉地会長

## 片上～伊部史跡めぐりハイキングマップ（自然体感型）



3 野外研修  
伊部つながりの森を見学



昼食（カレーライス販売）



記念撮影



小学生の植えたアカマツ植栽地



狐塚城



つながりの鐘付近



シイタケ柵場

# ■森づくり研修会

森づくり活動団体等が自立して活動するために、必要となる安全技術や森づくり活動の実践的な知識のほか森林資源の利活用などの知識及び技術の向上を図りました。また、森づくりサポーター等の指導者に必要な指導技術・知識の向上を図る研修を実施し、森づくりサポーターの登録及び派遣活動を推進しています。

## 第2回 森づくりの基礎(森の分解者キノコに学ぶ)

開催日: 令和3年9月26日(日)  
場 所: 高梁美しい森  
受講者: 12名

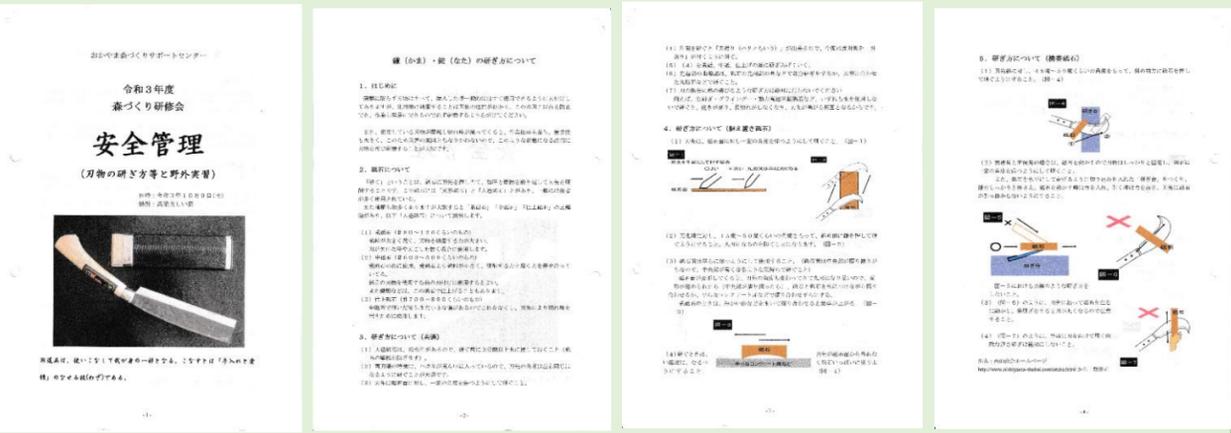
- ・ キノコ及びキノコの効用
- ・ キノコの生態観察と食用としての調理実習



## 第3回 安全管理(刃物の研ぎ方等と野外実習)

開催日: 令和3年10月9日(土)  
場 所: 高梁美しい森  
受講者: 8名

- ・ 刃物の研ぎ方及び鋸の目立て講義及び実習
- ・ 道具の使い方の基本実習とマツタケ林整備実習



## 第5回 竹の利活用

開催日: 令和3年11月16日(火)  
場 所: 真備美しい森  
受講者: 15名

- ・ スミヤケールによる炭焼き
- ・ 竹林伐採、運搬
- ・ 大型チップパーによる竹チップ化
- ・ 竹の利活用について メンマの作り方ほか
- ・ 炭出し、片付け



## 第6回 タケノコ採取のための竹林整備

開催日: 令和3年12月2日(木)  
場 所: 倉敷市真備町の竹林及び真備美しい森  
受講者: 8名

- ・ タケノコ採取のための竹林整備
- ・ 孟宗竹の搬出、利用、販売
- ・ 搬出した竹材の販売報告
- ・ 竹の利活用について (講義)



## 第7回 チェーンソーの安全な使い方

開催日: 令和4年1月15日(土)

場所: 美咲町林業センター及び美咲町有林

受講者: 4名

- ・ チェーンソー(刈払機)使用時の安全管理
- ・ チェーンソー(刈払機)に関する知識
- ・ チェーンソー(刈払機)の実技



※第1回「刈払機の安全な使い方」、第4回「チェーンソーの安全な使い方」は中止

## ■森づくりサポーターの活動状況

### 野鳥観察の指導

黒田聖子 (岡山市)

「ホーホケキョ」と聞けば、多くの方がウグイスの鳴き声だとわかります。しかし、ウグイスは鶯色をしておらず、茶色だと知っている人は意外と少ないかもしれません。野鳥は身近な野生動物でありながらも、姿が見えても一瞬で飛び去ってしまうことや、鳴き声だけで姿が見えない場合もあり、鳥に興味を持って、名前がわかるようになるまでは時間がかかるように思います。1番いい方法は、詳しい人に教えてもらうことに尽きると思います。名前だけでなく、その鳥の生態なども含めて聞くことができ、より印象深く残ります。私自身も探鳥会や調査活動を通じて、多くの野鳥や樹木、その地域の歴史など様々なことを教えてもらいました。森づくりサポーターとして、小学校で野鳥の観察会を行うと、双眼鏡の使い方をすぐに覚え、観察した鳥の中でお気に入りを見つける子もいれば、普段よく見かける鳥の名前を尋ねてくる子もいます。こういう機会をもっと増やしていき、身近な自然を楽しむ経験をして欲しいと思います。

日本には豊かな森があるため、多種多様な鳥が生息し、季節によって渡りをする鳥も多くいます。また、種によって好む環境が異なり、雑木林を好む鳥もいれば、植林地の伐採後の空間を好む鳥もいます。そんな鳥たちを通じて、私は多くの人に自然や森に興味を持ってもらいたいと思っています。私は大学生の頃からブッポウソウという鳥の生態研究や保護活動を続けています。環境省の鳥類標識調査員の資格も取得し、鳥の識別や捕獲し標識するという技術も身に付けてきました。長年、高梁地域で野鳥や山野草の保護活動を積極的に行ってきた、高梁野鳥の会の会長の役目を引き継ぐことにもなりました。私は人と関わることが好きなので、探鳥会などを通じて、自然保護活動に取り組む仲間を増やしていきたいと考えています。



# ■新規会員の紹介

昨年度新たに加入した団体です。

番号	53	54
名称	おみの山を守る会	NPO法人 黒崎地創研
主な活動地	岡山県苫田郡鏡野町沖498番地他	倉敷市玉島西南部
代表者	池田 晃	藤澤 勝彦
連絡先	苫田郡鏡野町沖583 TEL 0868-54-2453	倉敷市玉島黒崎3453 TEL/FAX 086-528-0019 Eメール k-fujisawa@kurashiki.co.jp
設立年月日	令和2年8月7日	2016年10月27日
設立目的	以前は神社が鎮座していた山だが、長年放置していたため、竹・雑木が蔽い茂っていた。何とかできないか方策を考えていたところ町より伐採の支援がいただけることとなった。 伐採後、数年かけて植樹や整備をして地域のシンボル憩いの場となるようにしたい。更に、町の里山再生モデルとなるよう会員と力を合わせて環境整備に努めたいと考えている。	1. 宝亀堤防安全性に関する行政への提言事業 2. 文化まちづくりの推進を図るための事業 3. 空き家・耕作放棄地に対する事業 4. その他目的達成のための事業
会員数	17名	16名
活動状況	<p>長年放置状態であった共有山林を何とかしたいということで、町の森づくり事業へお願いをしていたところ、令和2年春におみの山整備に関わる事業について町より支援をいただくこととなった。8月「おみの山を守る会」という組織を立ち上げ整備について協議してきた。理想としては、四季折々に人々が散策しながら木々の美しさに触れ、里山再生モデルとして地域の参考になるような山を目指していきたいという思いがあった。</p> <p>そうした中、県のおかやま森づくりサポートセンター加入の申請をして9月の活動発表会に参加させていただいたり、将来像やそこに進むための方策などを会員同士で話し合ったりした。特に維持管理の大変さと会員の高齢化をどう乗り越えていくかということが大きな課題となった。その時、おかやま森づくり県民基金事業というのを紹介していただき、町の支援と県の事業への取り組み参加により木々がある程度大きくなるまで継続的な取り組みができると会員に賛同を得ることができた。</p> <p>令和3年2月より竹や雑木の伐採が行われ、3月末に「山桜・もみじ・ヤマボウシ・トチ」の4種類90本を植樹した。現在、植樹した苗木の生育状態の観察をしたりタケノコの伐採やクズのかずら除去活動に努めたりしている。特に竹林であったため、タケノコが異常に発生しており週に3日は山に入って切り倒している。何年かはこの状態が続くのではないかと考える。また、雑木や竹の切り株が多く残っているため、撤去して歩行しやすい通路の整備や急な斜面には階段をつけることも考えたい。今後残った倒木や竹の処理と新たな植樹を進めながら緑豊かな里山づくりを目指している。</p>	<p>1. 地域住民及び地元保育園の情操教育のため「ホタル飼育、ビオトープ管理」 2. 山羊を飼育(現在7頭)、地域住民の憩いの広場作り 3. 山羊飼育の為、耕作放棄地を牧場に整備 4. 「森づくり支援基金助成」を受け耕作放棄地「森林化した竹藪」を借り入れ山羊牧場を開墾整備・管理道路の整備、イノシシ防御と牧場を兼ねた柵作りの実施 5. 環境の保全及び美化活動事業「花の苗を育成し地域住民に配布(ヒマワリ・コスモス・備中綿・コキア)」 6. 牧場内に桜の植樹 7. 地元秋祭りの御旅所設営協力、祭りを盛り上げるためアイスクリン販売(今年度コロナで中止)</p>
今後の目標	<p>今後数年、竹の伐採や下草刈りをしながら、四季を通して木々の成長を見守りたい。この場所は、国道179号線からもよく見え、近くにソメイヨシノを植樹した山もあり、地域の憩いの場所としては最適である。樹木の品種を工夫してバランスのある植樹をし、会員相互の交流や地域の人々が訪れやすい場所となるよう整備を進めていきたい。</p> <p>また、森づくりサポートセンター加入により、県内他団体の活動を参考にさせていただきたいと考えている。</p>	<p>ビオトープ・ホタル・花・桜・山羊牧場を充実させて子供たちの情操教育・地域住民の憩いの場。そして地域が少しでも明るくなるよう活動をしていきたい。 引き続き「森づくり支援基金助成」を継続し充実して行きたいと思っています。</p>



おかやま森づくりサポートセンターでは、森づくりに使用するヘルメット・鋸・唐鍬などの資機材の貸出し、ホームページへのイベント情報の掲載などにより、ボランティアによる森づくりの推進を応援しています。  
森づくりについて知りたいことなどありましたら、当センターまでお気軽にご相談ください。

-おかやまの森の恵みを楽しむ-

## おかやま森づくりサポートセンター

一般社団法人岡山県森林協会

ご相談窓口 (〒710-8530 倉敷市羽島1083)

TEL/FAX: (086)441-8278 e-mail: [morisapo@joy.ocn.ne.jp](mailto:morisapo@joy.ocn.ne.jp)

<http://okayama-morisapo.org>

